論　文　の　内　容　の　要　旨

本研究の目的は，21 世紀以降米軍がイラク及びアフガニスタンの安定化作戦で民間軍事警備会社(PMSC)を活用・規制することで，米軍がPMSC の支援なしに安定化作戦を遂行できなくなっているのか，また米軍の追求する軍の在り方が変化しているのであればそれは何かについて明らかにすることにある。これは，21 世紀における米軍の在り方を問う重大な問題である。

このことを立証するため，本研究では米軍の作戦に及ぼすPMSC の影響力の広さを戦略レベルという大きな観点から捉えた。具体的には，米軍が軍事力を行使する際の基本的要素に着目し，自国の外交政策の推進（軍事力行使の目的），軍の即応性の発揮（軍事力行使の対応要領）及び軍事作戦の正当性の確保（軍事力行使の道義・合法的基盤）という3 つの視点から検証した。この視点は，戦力投射(power projection)という軍事的な概念の特性を整理して導き出したものである。

研究の結論 本研究の結論は，PMSC の役割が質的に変化しており，安定化作戦及び通常戦の両作戦形態への対応が求められる米軍のなかで21世紀型の新たな軍隊の在り方が形成されつつあることにある。

本研究では，PMSCの影響力が米軍の推進する安定化作戦のなかで戦略的に拡大していること，また米軍が請負業務の管理・監督を制度的に強化しようとしていること，そして米軍の支援体制上の問題が改善されていないことが分かった。このことを受けて，米軍のなかで3つの変化が生じている。すなわち，①米軍がPMSCの支援なしには安定化作戦を遂行できなくなっていること，②非戦闘的活動を主体とする安定化作戦のなかで，中心的役割を果たす主体が軍人からPMSC に移行しつつあること，そして③軍の非戦闘的活動において米軍が自己完結性という軍本来の在り方から一部後退する方向にある。

これらの変化は，PMSCの影響力がイラクやアフガニスタンで推進される安定化作戦に留まらないことを示している。すなわち，両国以外で推進される安定化作戦，また戦闘行動が主体をなす通常戦においても，PMSCが影響力を及ぼすようになっている。なぜなら，安定化作戦及び通常戦は本質的に異なった作戦形態であるものの，一部の側面（小部隊の指揮・統制能力，現地文化及び慣習の尊重，軍の統一性，兵站支援，兵力構成）において共通点があることから，PMSCが米国における国防全体の在り方に重大な問題を提起しているからである。

換言すれば，PMSCの役割が質的に変化している。すなわち，これまで認識されてきたように，PMSCは軍の戦力を単に現場レベルで増強できるだけの存在ではもはやなくなっている。PMSCは米軍が軍独自の支援機能の不足を補完しながら安定化作戦及び通常戦の両作戦形態に柔軟に対処できるように軍全体の戦力を結合させるような歯車的存在，いわば「フォース・インテグレイター」(force integrator)として役割を担い始めている。これは，作戦

形態や作戦規模を問わずPMSCが米軍にとっていまや戦略的な役割を果たす重要な存在になっていることを示している。そして，PMSCが戦略的な役割を担い始めていることで，米軍がこれまで伝統的に追求してきた軍本来の自己完結性を全面的に追求しなくても作戦を遂行できるような21世紀型の新たな軍の在り方が米軍のなかで構築されつつある。

研究の意義及び独創性 本研究の意義及び独創性は，PMSCの影響力の広さやその意義についてこれまで十分に認識してこなかった既存の議論に対して重要な問題提起をすることにある。

これまで米軍でも軍事科学でも，PMSCの役割を現場レベル（作戦・戦術的次元）に捉える傾向にあり，それを戦略的に広く捉えることは稀であった。これは，これまで米軍がPMSCを含む請負業者を軍の作戦を補助的に支援できる存在として捉えるに過ぎなかったからである。また軍事科学では，一部でPMSCを幅広く捉えてその影響力を戦略的に検証することはあっても，それは自国の外交政策や軍の支援機能の量的要素といった側面から限定的にPMSC の影響力について明らかにするに留まっていた。さらには，軍事科学以外の学問分野でも各研究視点からPMSCの利点や問題点について検証されてきたが，その議論ではPMSCの軍事的役割そのものについて関心を寄せていない。

一方，PMSCを巡る問題は，PMSCの活用規模やその業務内容が拡大すれば，その影響力も必ず大きくなるというものではなかった。つまり，PMSCの役割が量的に拡大したとしても，軍の作戦に及ぼす影響力が大きく変化しないことも十分にあり得たのである。英軍の例がそれを示している。

本研究は，PMSC の影響力を戦略的視点から幅広く捉えることで既存の研究では明らかにできなかったこと，すなわち PMSC が米軍の在り方に及ぼす影響力について解明していくものである。安定化作戦及び通常戦の両作戦形態への対処が求められる米軍のなかで，PMSC の役割が質的に変化していることを明らかにすることは，21 世紀における米軍の在り方そのものを問う重大な問題である。ここに本研究の意義と独創性がある。